



若芽どき

「3月はライオンのように来たりて、仔羊のごとく去る」というのは、イギリスの天気についての「ことわざ」とか。ここ寄居では、3月に引き続いて、4月もライオン、です。「三寒四温」を通り越し、一週間ごとに寒と温が入れ替わる激しい乱高下、とうとう先週は、雪まで降ってしまいました(左の写真は、軽トラックに積もる雪と、咲く桜)。人も野菜も、脱いだり来たりが忙しく、体調管理も難しく、夫は先週久々に高熱を出して寝込む始末。



遅霜などもありそうで、気は抜けません。

でも、晴れた日は、雑木林の芽吹きが美しい。と思う間に、どんどん緑が広がっていきます。なぜ、こんなに優しいんだろうかと思うと、たぶん小さな葉っぱのかけに、小さな花を抱えているからなのかな、と納得したり。右の写真は、庭にある楓の若芽と花です。

ハチの話

「世界の食料の9割を占める100種類の作物種のうち、7割はハチが受粉を媒介している」そうです。ミツバチが、世界中で数を減らしていることが、報道されるようになったのは、ずいぶん前のこと。その原因の一つであろうということで、ヨーロッパでは2013年から使用を一時停止されているのが、殺虫目的のネオニコチノイド系の農薬です。この4月、アメリカでも、米環境保護局(EPA)が、ミツバチの大量死の原因と疑われているネオニコチノイド系農薬の新たな使用を原則禁止にする方針を発表したそうです。

日本では、農薬だけでなく、家庭での殺虫剤にも多く使われているうえ、逆に、昨年には、ホウレンソウや白菜、カブなどへの残留基準を大幅に緩和する案を、市民団体などの反対を押し切って、厚生労働省の審議会が了承しています。

ミツバチの数が減っているのは、私たちも実感しています。昔は、梅の花が咲くころから、ぶんぶんうるさいほど飛んでいたのに、今じゃあ4月に入っても、ちらほら見かけるだけです。

「ハチがいなくなったら、農業はできなくなるし、人間も生きていけなくなってしまいます。ハチたちと共存できる農業や暮らしをしよう」何度でも、誰にでもわかりやすい約束を、大人たちも交わそう。

選挙のこと

地方統一選の前半が終わりました。ここ寄居町では、埼玉県議選の投票がありました。投票率は、過去最低で40%を切ってしまいました。後半の町議選の方が、いつも投票率は高く、60%を超えていたのですが、今回はどうなるのでしょうか。私たちは、残る1週間で、応援する候補者のチラシのポスティングをするつもりですが、皆さまも、投票区の候補についていろいろ調べて、よい選択をなさってください。(4月13日 泰子)

